

2021.5.19



2020年度決算 経営戦略進捗状況説明会

代表取締役社長
野崎 明



MINING THE FUTURE



住友金属鉱山

SUMITOMO METAL MINING

説明内容

- I. 総括
- II. 2020年度業績および2021年度業績予想の概要
- III. 18中計 成長戦略の推進状況
- IV. 足元の課題と重点施策
- V. 「2030年のありたい姿」実現に向けた活動の推進
- VI. 資料編

I. 総括

I. 総括

II. 2020年度業績および2021年度業績予想の概要

III. 18中計 成長戦略の推進状況

IV. 足元の課題と重点施策

V. 「2030年のありたい姿」実現に向けた活動の推進

VI. 資料編

総括① 2020年度の振り返り（生産・販売・プロジェクト）

【生産・販売】

コロナ禍の1年。大小様々な影響はあったが、各現場で様々な工夫を凝らしきちんと操業を続けて、生産・販売ができた結果、金属価格上昇が反映された決算となった。

 **地道な基本動作があつてこそその結果**
（操業維持の努力、操業コストの抑制や販売プレミアムの獲得など）

【大型プロジェクト】

- ・コテは建設決定し、工事着手、順調に進捗
- ・QB 2 は一時建設中断も再立ち上げ
- ・ポマラは外的要因あり検討進捗に影響
- ・電池材料は、一部増強起業決定

 **コロナで進捗に影響**
制約を受けながらも推進

総括② 足元の経営課題

1) 社会的課題が経営に及ぼす影響

- ・カーボンニュートラル（被選別リスク、技術開発・適用難度）
- ・DX（競争力劣後リスク、セキュリティリスク）
- ・人材戦略（確保・育成・活用）（企業活力減退リスク）

2) 当社事業に関連する固有の課題

- ・進出先国の情勢（例：資源ナショナリズム）
- ・競合技術の台頭（例：低品位Ni鉱製錬）

「2030年のありたい姿」
実現のPDCA

「2021年中期経営計画」

3) 資源・素材の供給責任（⇔コストアップ懸念）

- ・開発難度、コスト（資源劣化、立地、建設費・・・）
- ・（広義）環境コスト（保護・保全＋ダム、電力、リサイクル・・・）

総括③ 安全に対する取り組み

18中計目標未達成

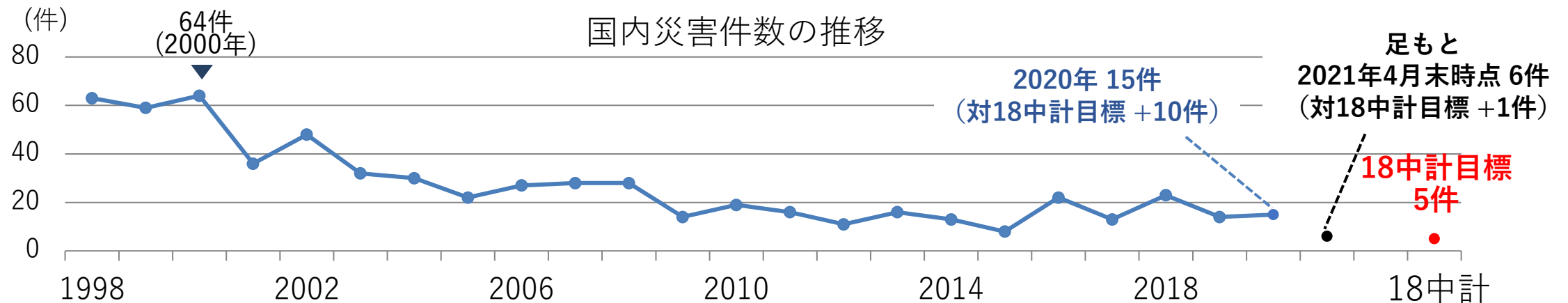
- 重篤災害の発生は防いだが、全災害の件数の大幅な改善は出来ず。
- 設備の安全化改善は進んでいるが、効果的リスクアセスメントにより更に推進する。
- 不安全行動による災害が多発。
作業観察により現場での現実を見抜き、是正や対策をさらに進める。

2021年度に達成させる姿

- 重篤災害を防ぐために重点的に改善すべき課題を明確にして、PDCAを回しながら活動を推進する職場
- トップと管理監督者が作業者とコミュニケーションを取りながら、3現に基づき現場の実態を把握して設備の改善を進め、自然に安全を十分に配慮した手順で作業が行われる職場

18中計期間目標

国内社員災害 **5件以下**
海外事業場全災害 **3件以下**



II. 2020年度業績および2021年度業績予想の概要

I. 総括

II. 2020年度業績および2021年度業績予想の概要

III. 18中計 成長戦略の推進状況

IV. 足元の課題と重点施策

V. 「2030年のありたい姿」実現に向けた活動の推進

VI. 資料編

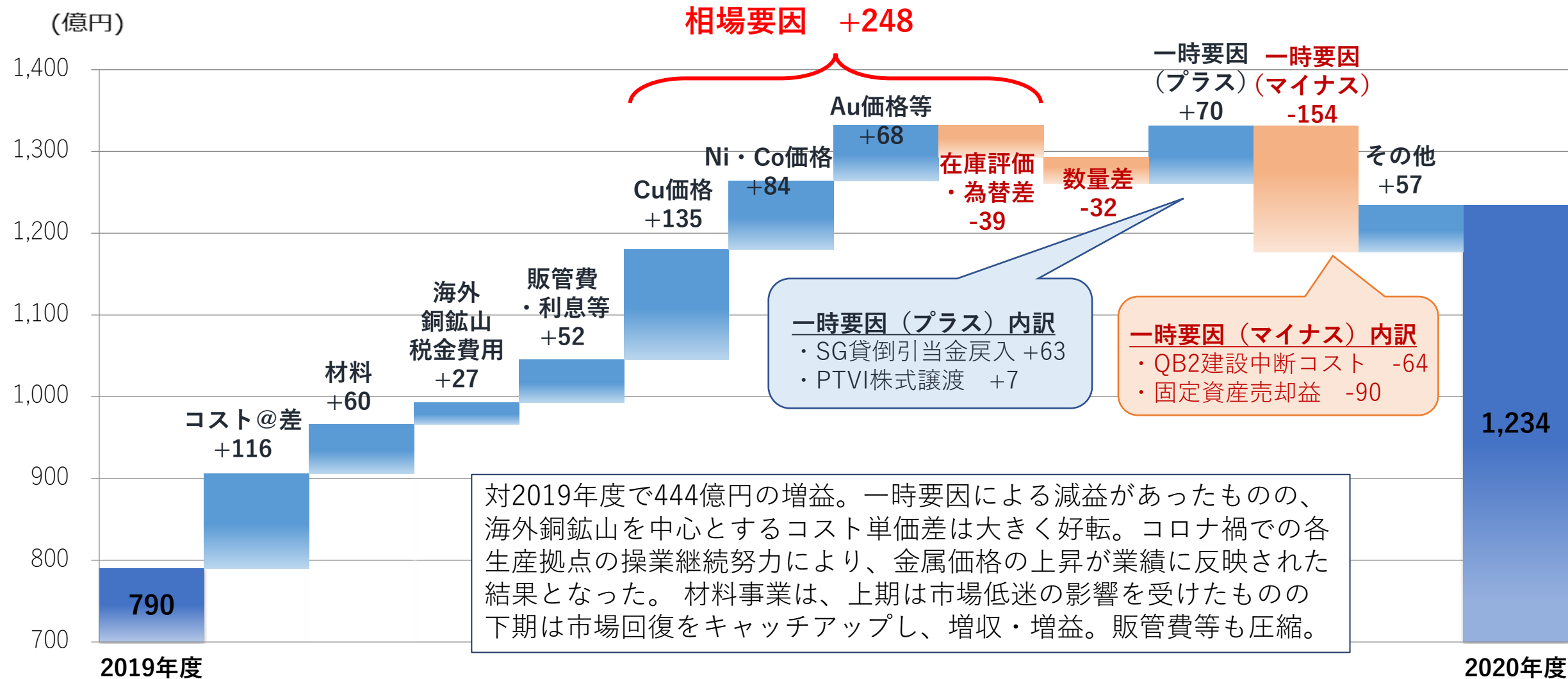
1) 業績推移 (2015年度～2021年度予想)

(億円)		日本基準【J-GAAP】			国際会計基準【IFRS】				
		2015	2016	2017	2017	2018	2019	2020	2021予想
売上高		8,554	7,861	9,335	9,297	9,122	8,519(※2)	9,261	10,470
営業利益		597	764	1,102	—	—	—	—	—
経常損益		-128	-16	1,249	—	—	—	—	—
税引前損益		6	-60	1,058	1,083	894	790	1,234	1,380
内持分法投資損益		-732	-860	114	123	-49	62	87	405
セグメント利益	資源	-443	-536	560	580	473	379	653	890
	製錬	253	333	515	478	409	482	558	370
	材料	60	121	153	71	138	53	113	110
	その他	-8	-1	2	-74	-20	-9	-28	-20
	調整額	10	67	19	28	-106	-115	-62	30
当期損益(※1)		-3	-185	916	902	668	606	946	1,040
銅 (\$/t)		5,215	5,154	6,444	6,444	6,341	5,860	6,879	7,800
ニッケル (\$/lb)		4.71	4.56	5.06	5.06	5.85	6.35	6.80	7.00
金 (\$/Toz)		1,150	1,258	1,285	1,285	1,263	1,462	1,824	1,700
コバルト (\$/lb)		11.73	13.67	30.64	30.64	31.64	15.76	16.62	15.00
為替 (¥/\$)		120.15	108.40	110.86	110.86	110.92	108.74	106.07	107.00

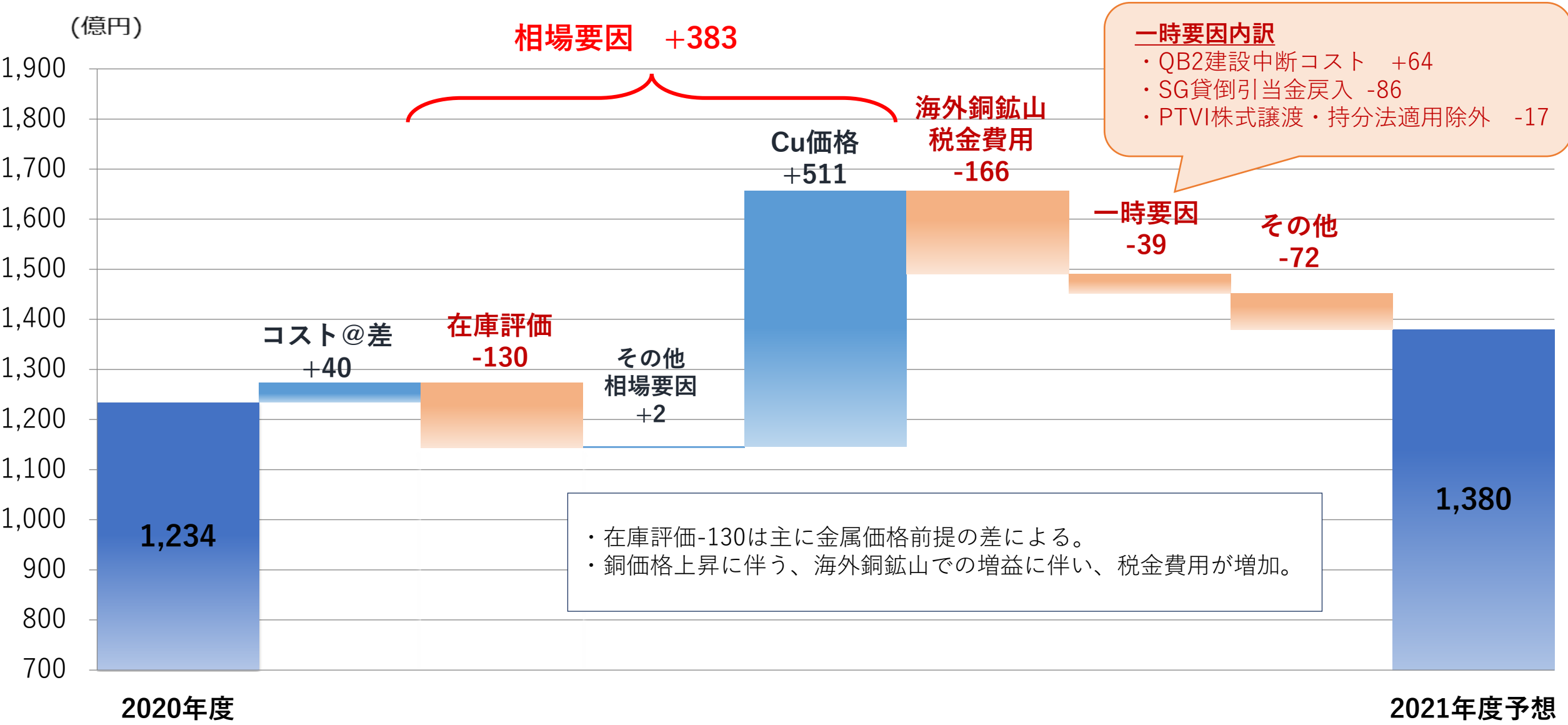
2) 2020年度業績および2021年度業績予想

(億円)		2020実績 (A)	2019実績 (B)	増減(A)-(B)	2021予想(C)	増 減 (C) - (A)
売上高		9,261	8,519(※)	+742	10,470	+1,209
売上総利益		1,509	1,095	+414	1,500	-9
税引前損益		1,234	790	+444	1,380	+146
内 持分法投資損益		87	62	+25	405	+318
セグメント利益	資 源	653	379	+274	890	+237
	製 錬	558	482	+76	370	-188
	材 料	113	53	+60	110	-3
	その他	-28	-9	-19	-20	+8
	調整額	-62	-115	+53	30	+92
親会社の所有者に 帰属する当期純利益		946	606	+340	1,040	+94
銅 (\$/t)		6,879	5,860	+1,019	7,800	+921
ニッケル (\$/lb)		6.80	6.35	+0.45	7.00	+0.20
金 (\$/Toz)		1,824	1,462	+362	1,700	-124
コバルト (\$/lb)		16.62	15.76	+0.86	15.00	-1.62
為替 (¥/\$)		106.07	108.74	-2.67	107.00	+0.93

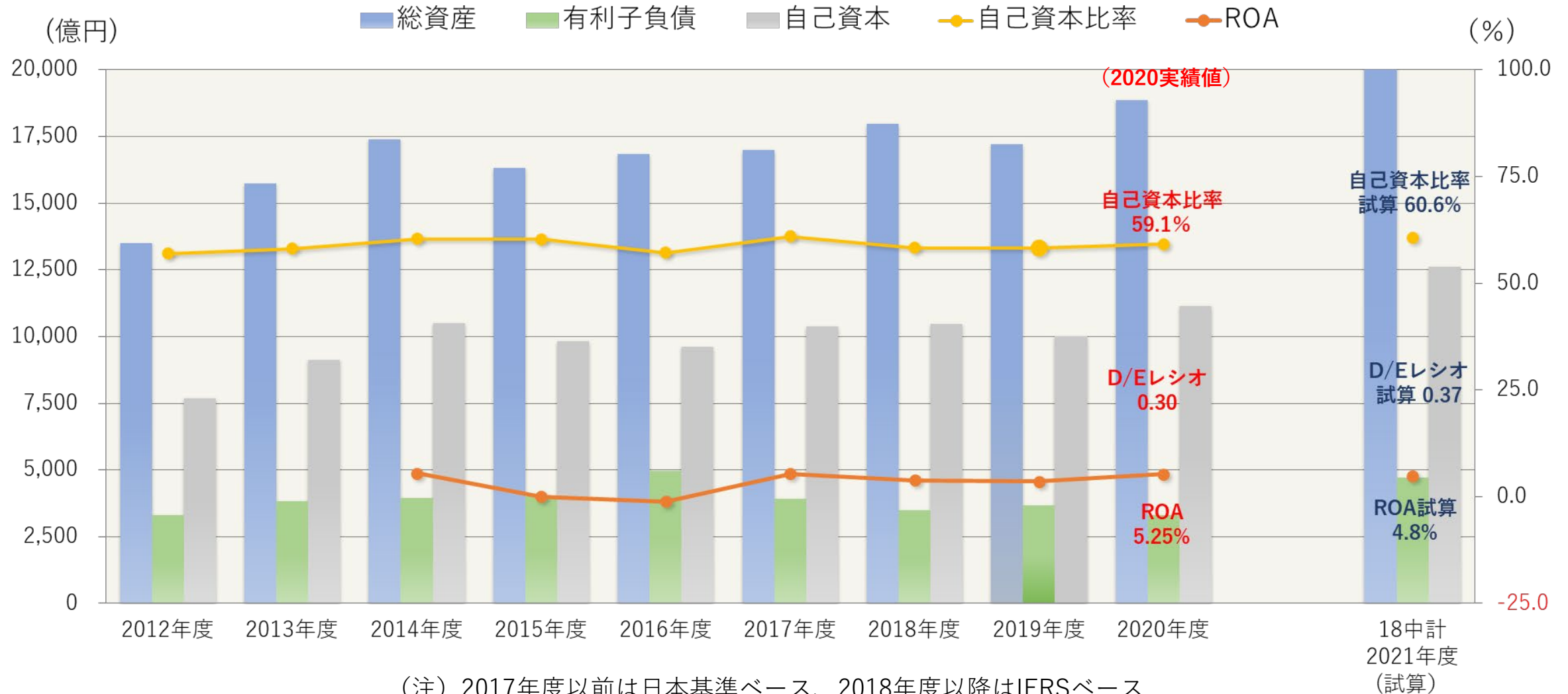
3) 税前損益分析 2020年度実績vs2019年度実績



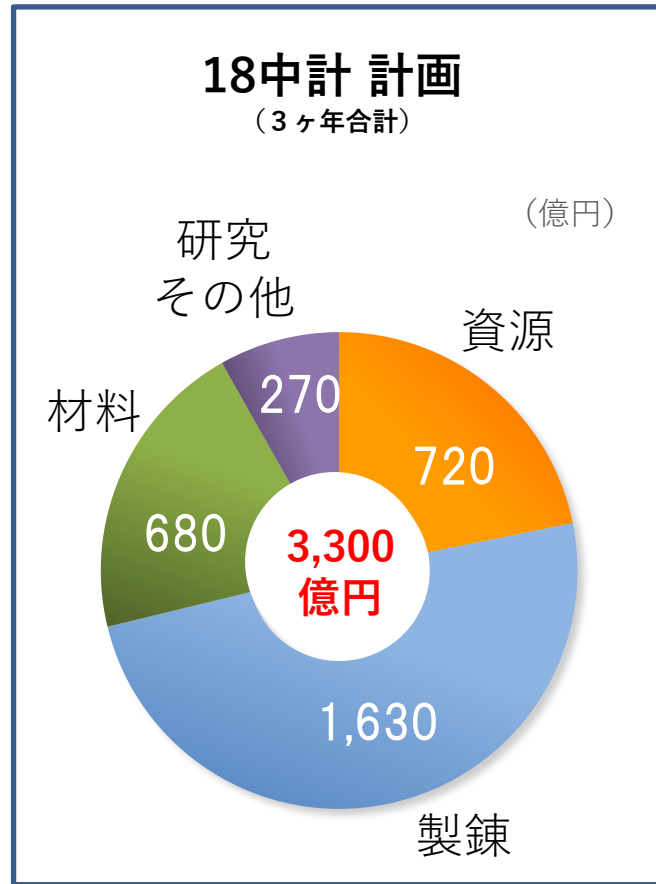
4) 税引前損益分析 2021年度予想vs2020年度実績



5) 財務状況の推移



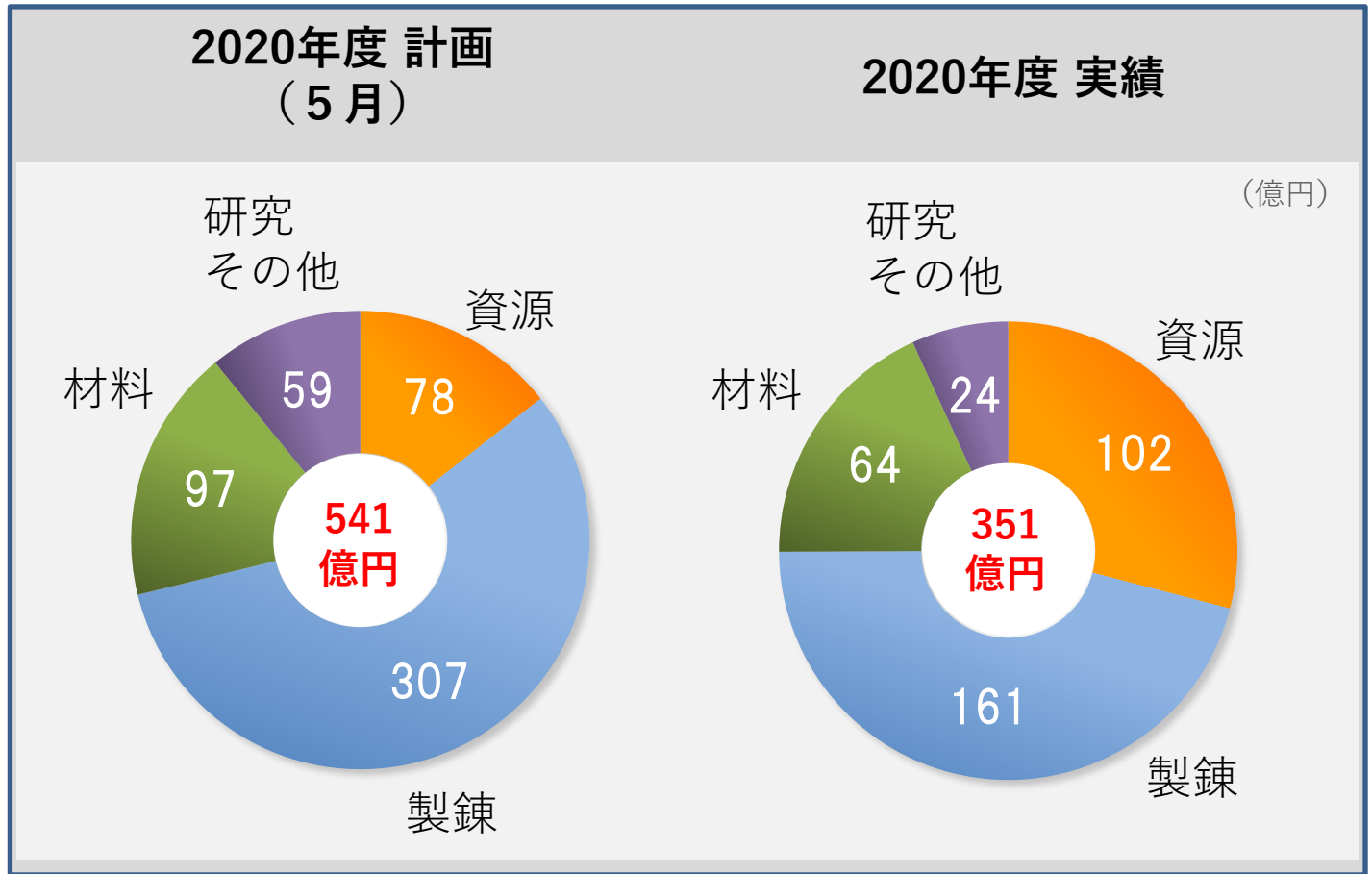
6) 設備投資実績 (2020年度実績vs2020年度計画)



+

投融资

(QB II 他 1,600億円)

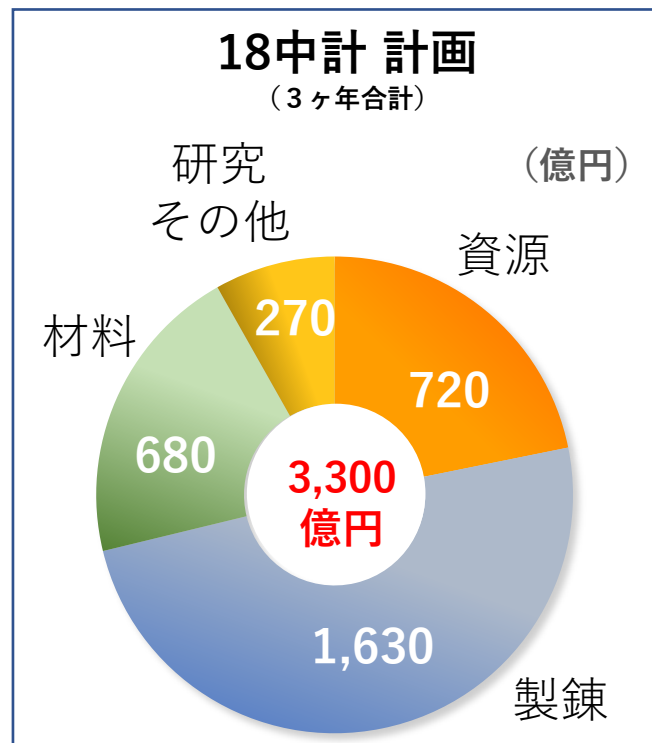


2020年度実績vs2020年度計画 (5月) : △190億円の主な理由
一部検収時期のズレおよび不要不急の設備投資の圧縮など

主要案件
(カッコ内は計画総額)

- ・コテ金開発プロジェクト 45億円 (総額 395百万米ドル)
- ・菱刈鉱山下部鉱体開発 3.5億円 (総額 37億円)

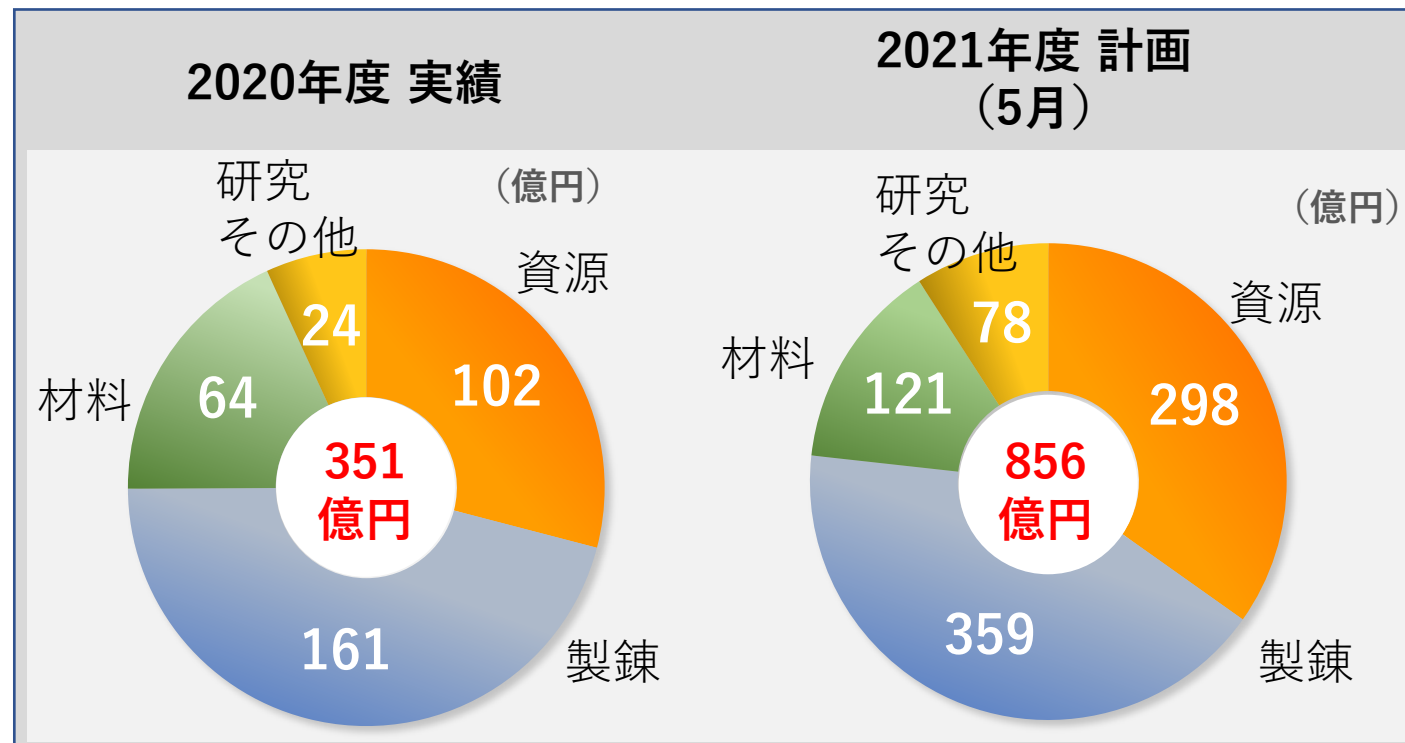
7) 設備投資計画 (2021年度)



+

投融資

(QB II 他 1,600億円)



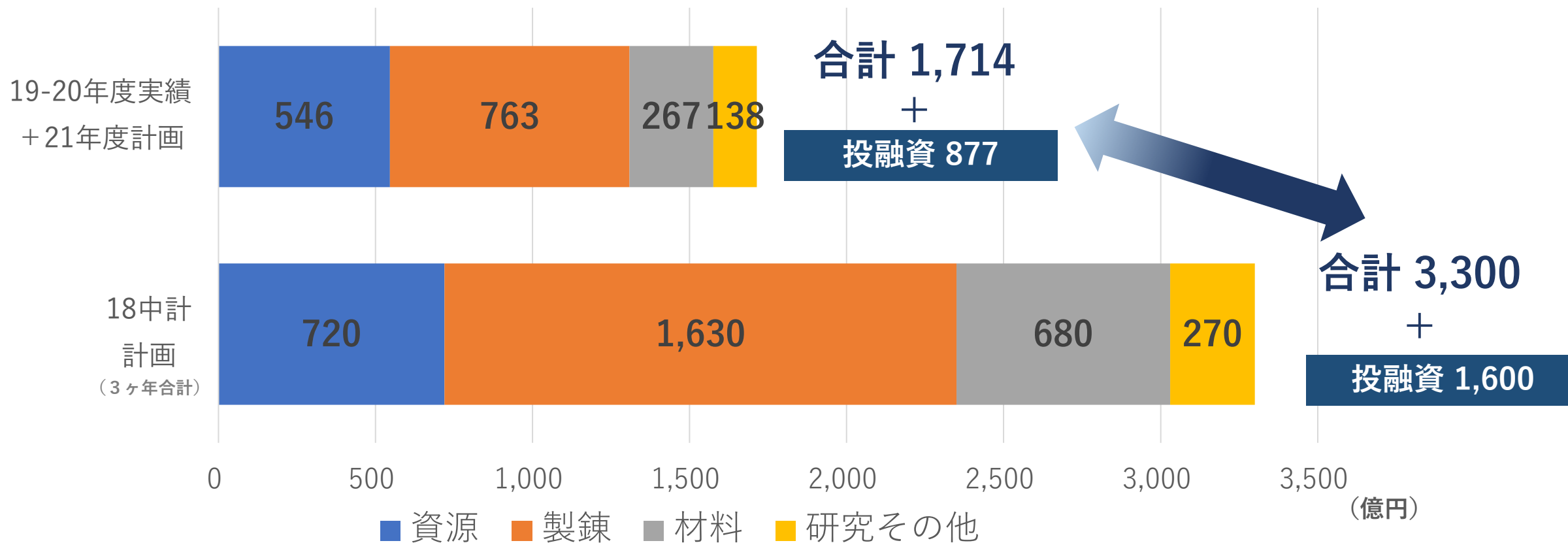
主要案件
(カッコ内は計画総額)

- ・コテ金開発プロジェクト 186億円 (総額 395百万米ドル)
- ・電池研究所の拡張・設備拡充 14億円 (総額 16億円)
- ・別子事業所独身・单身寮新設 10億円 (総額 47億円)
- ・菱刈鉱山下部鉱体開発 4億円 (総額 37億円)
- ・ボイラーLNG 化※ 2億円 (総額 8億円)

※社内カーボンプライシング適用案件

ポマラプロジェクトは、当社として投資決定の判断を下した段階で個別に公表予定。

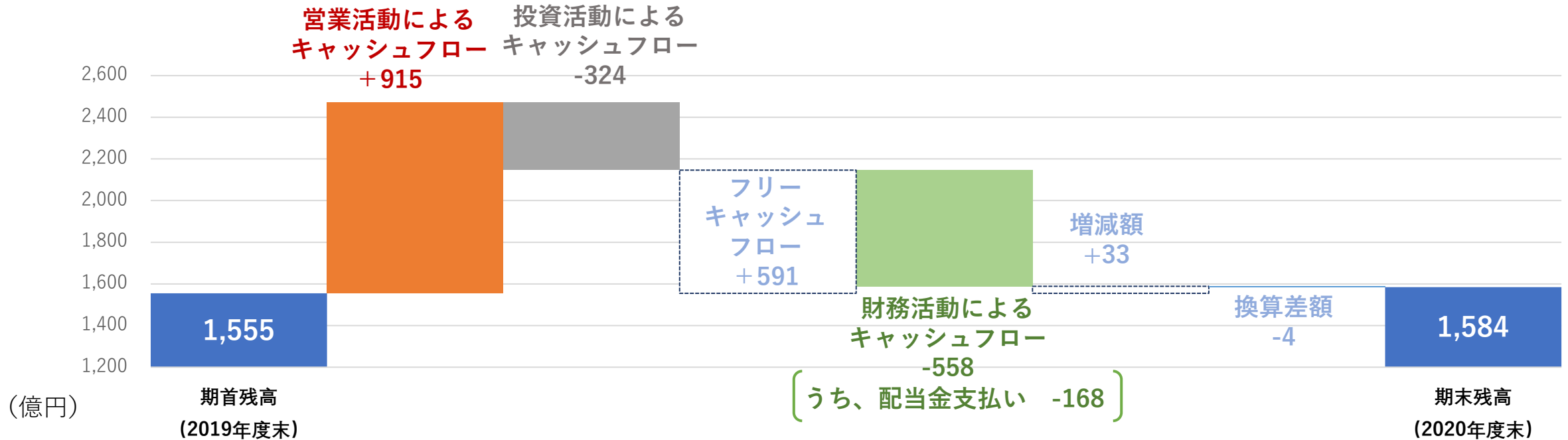
8) 設備投資・投融資計画（対18中計 比較）



コロナ禍での投資時期の後ろ倒しによる影響（ポマラ、投資圧縮など）や、QB2プロジェクトにおけるプロジェクトファイナンスの活用で、進捗率は約50%

9) キャッシュフロー（2020年度実績）

2020年度末の現金及び現金同等物残高は1,584億円で期首残高から29億円の増加。営業活動キャッシュフローは915億円の収入、投資活動によるキャッシュフローが324億円の支出、財務活動によるキャッシュフローは借入金の返済や配当金の支払いなどにより558億円の支出となった。



18中計3か年での投資キャッシュフローは4,900億円支出(※1)の見込みに対し、2019年度の投資活動によるキャッシュフロー703億円の支出(※2)と合わせ、足元の進捗は1,027億円の支出。

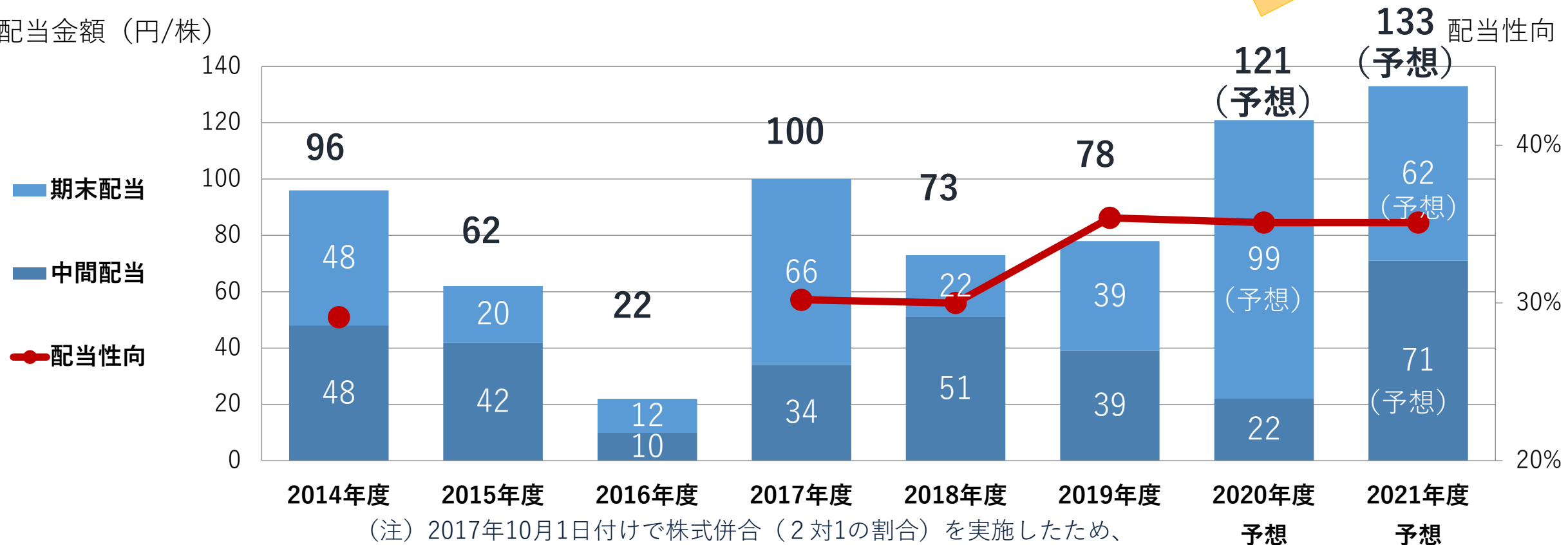
18中計に掲げた成長戦略を引き続き推進していくことに変わりはなく、
タイミングがずれた分は今後支出していく。

10) 株主還元（配当予想：2020年度・2021年度）

<18中計>
配当性向 35%以上

一株当たりの配当金額
として過去最高

配当金額（円/株）



III. 18中計 成長戦略の推進状況

I. 総括

II. 2020年度業績および2021年度業績予想の概要

III. 18中計 成長戦略の推進状況

IV. 足元の課題と重点施策

V. 「2030年のありたい姿」実現に向けた活動の推進

VI. 資料編

1) QB2プロジェクトの状況（進捗・今後の予定）

- ◆ 新型コロナウイルス感染症の影響で昨年建設中断するも、コロナ対策を整え再開
 - ・ 2022年後半に建設完了、および生産開始予定
- ◆ 今年4月にプロジェクト全体進捗の中間点を突破
 - ・ フル体制でのプロジェクト建設に向け、9,000人以上を足元動員。
 - ・ チリ国内のワクチン接種は順調、今年半ば頃に人員ピークを見込む。

パイプライン沿線送電線網、変電所建設



選鉱場：ミル設置



港湾エリア：脱塩プラント建設



2) Pomalaaプロジェクトの状況（検討状況・今後の取り組み）

早期に投資意思決定できるよう、
手続き・協議を継続

フィリピンのCBNC・THPALに続く
当社として第3のHPALプロジェクト

- 40kt-Ni/年の生産を見込む。
- 長期ビジョンで掲げる150ktへのマイルストーン。xEV需要により拡大が期待されるClass1 ニッケル製錬への原料供給。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、必要な許認可取得やパートナーとの協議に時間を要している状況。



3) 電池材料増強の状況（現況・展望）

**2024中計期間中（2027年まで）に正極材（NCA + NMC + 水酸化Ni）
で合計 10,000t/月体制の確立を目指す**

- ニッケル酸リチウム（NCA）は2022 年半ばより 4,550 t/月から 4,850 t/月へ増産。予定通り進捗。
- 世界の自動車電動化の動きは急速。さらなる増産を適切なタイミングで実施していく。
- 次世代の高性能ニッケル正極材や全固体電池用正極材料の開発を目的に電池研究所の拡張・設備拡充を実施。2022 年 7 月完成目途。2021年度は14億円の設備投資を予定。



三元系正極材（NMC）

4) コテ金開発プロジェクトの状況（進捗・今後の予定）

- ◆ 2020年は建設開始を意思決定し、魚類保護・キャンプの建設などを実施。コロナ対策を強化し、工事は概ね順調に推移。
- ◆ 2023年からの生産開始予定に向け、2021年は土木工事を中心に行う。
- ◆ ゴセリン地区など、周辺探鉱を積極的に推進。



現在順調に進捗

2017年6月

権益取得

2020年7月

建設開始の意思決定

2020年9月

起工式

10月～

工事本格化

2023年 マインライフ18年

生産開始予定

IV. 足元の課題と重点施策

I. 総括

II. 2020年度業績および2021年度業績予想の概要

III. 18中計 成長戦略の推進状況

IV. 足元の課題と重点施策

V. 「2030年のありたい姿」実現に向けた活動の推進

VI. 資料編

1) 資源 ①菱刈鉱山の状況

◆ 操業

- 18中計通り、年間6tの安定生産を継続。
- 2020年末の可採金量は159t。

◆ 下部鉱体開発

- 現状の温泉水位（海拔-32ML～10ML）を約30m下げるための、-80ML新抜湯室を建設中。
- 抜湯用のインフラ敷設が一通り完了し、今年1月より抜湯対象鉱脈への試錐を開始。



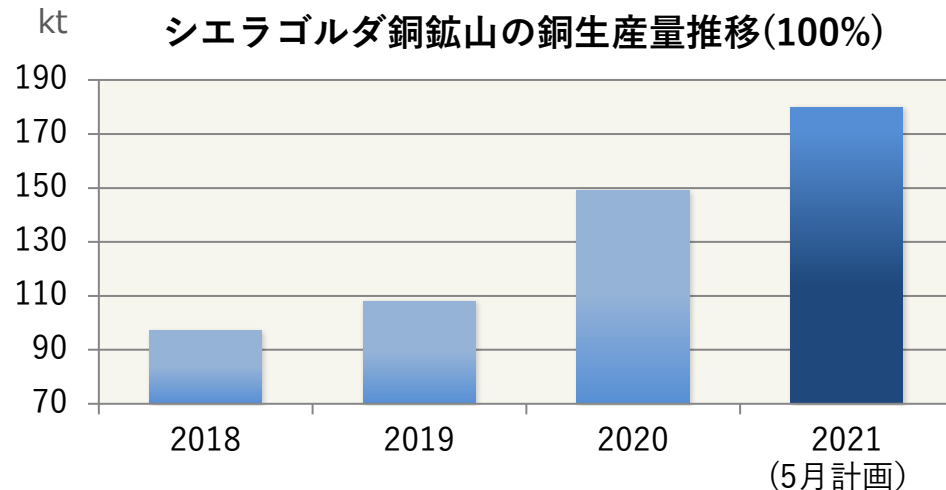
抜湯ボーリングの様子

1) 資源 ②海外銅鉱山の状況 (モレンシー、セロベルデ、カンデラリア)

- **モレンシー**は、2021年度の生産量計画は368kt。新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた一部ミル操業停止等の操業度削減策を継続する。これまで想定を上回って好調だったリーチング生産は平常に戻る見込み。
- **セロベルデ**は、2021年度の操業は鉱石処理量360kt/日、生産量計画は409kt/年と、新型コロナウイルス感染症拡大による操業停止の影響を受けた2020年度と比較して、増産の見込み。新型コロナウイルス感染症の収まり次第で、以前の鉱石処理量400kt/日へと回復させる見込み。
- **カンデラリア**は、2021年度生産量計画は175kt (※) と、ミル改善プロジェクトも完工し、ストライキの影響を受けた2020年度と比較して増産の見込み。
※オホスデルサラドとの合算
- とともに足元の操業への新型コロナウイルス感染症の大きな影響はなし。

1) 資源 ③シエラゴルダ銅鉱山の状況

- 銅生産量は順調に拡大し、2020年度の生産量は149ktと過去最高を記録。デボトルネッキングにより鉱石処理量130kt/日体制が確立。今後も安定化に努める。
- 2021年度の実生産量は180ktと、鉱石処理量・給鉱品位の上昇により増産の予定。
- 権益持分について売却を含めた戦略的選択肢の検討を継続。



2) 製錬 ①国内製錬所の状況

- 東予工場では、下期に約1カ月間の定期補修が予定されており、2021年度の電気銅生産計画は421kt（対2020年度実績△21kt）。
- ニッケル工場での、2021年度の電気ニッケル生産計画は57.0kt。
- 硫酸ニッケル（ニッケル工場・播磨事業所）は、電池向け需要拡大を受けてフル生産を継続し、2020年度の生産実績は79.1ktと過去最高を記録。2021年度は77.9ktの生産を計画。
- 日向製錬所での、2021年度のフェロニッケル生産計画は13.7kt。



2) 製錬 ②CBNC/THPALの状況



<CBNC>

- 2021年度の生産計画は20kt。

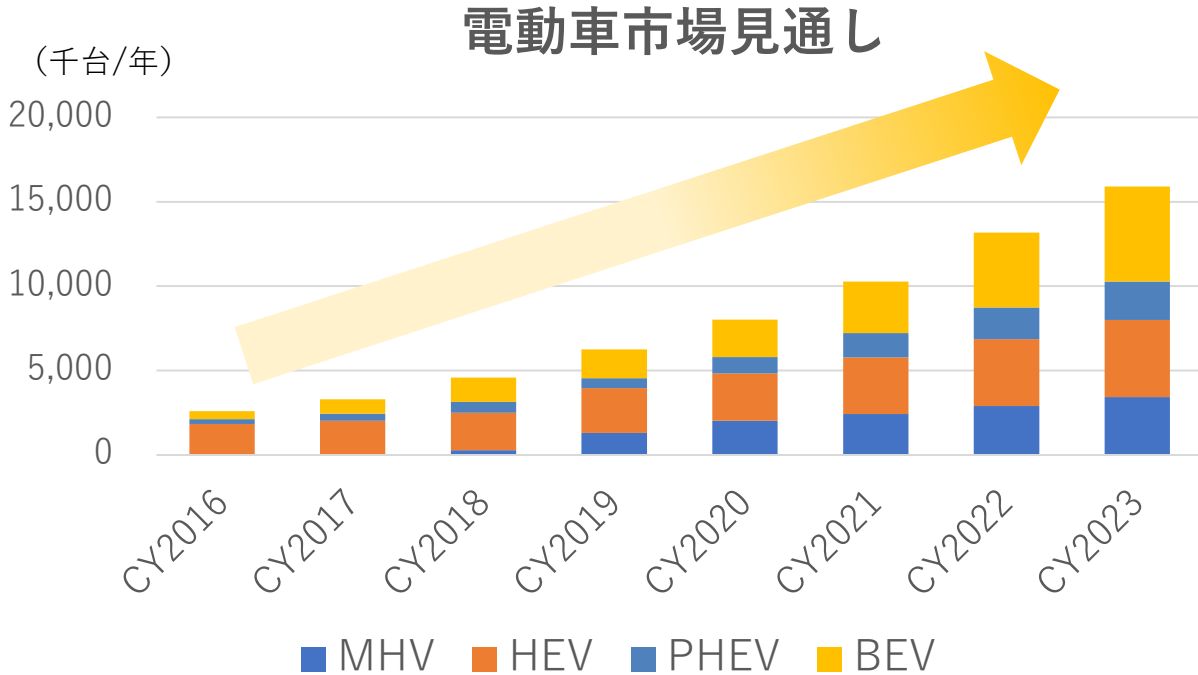
<THPAL>

- 2021年度の生産計画は33kt。
- 2021年度よりクロマイト販売を計画。

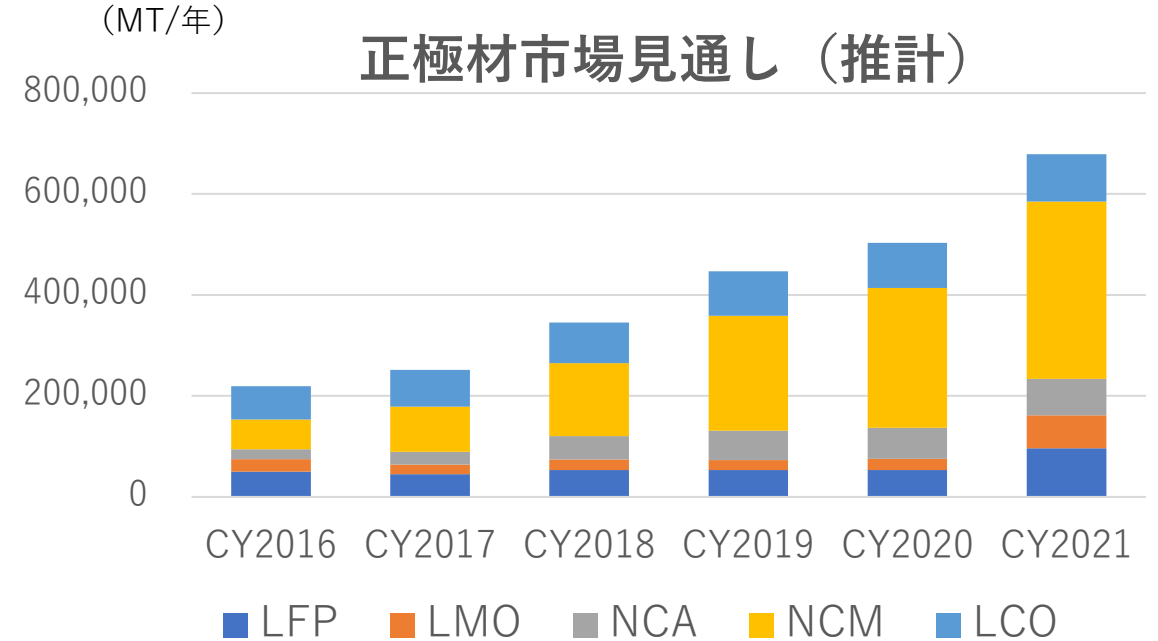
今年3月にCBNCとTHPALが、フィリピン環境天然資源省の「2020年鉱物産業環境大統領賞」を受賞。初の2拠点同時受賞。

モノづくり力強化による安定生産と競争力向上の両立、
地域社会および環境との共栄を図る操業を継続。

3) 材料 ①電池材料 市場動向・当社への影響等



(引用：B3 report 20-21 / November 2020)



(引用：B3 report 20-21/ February 2021)

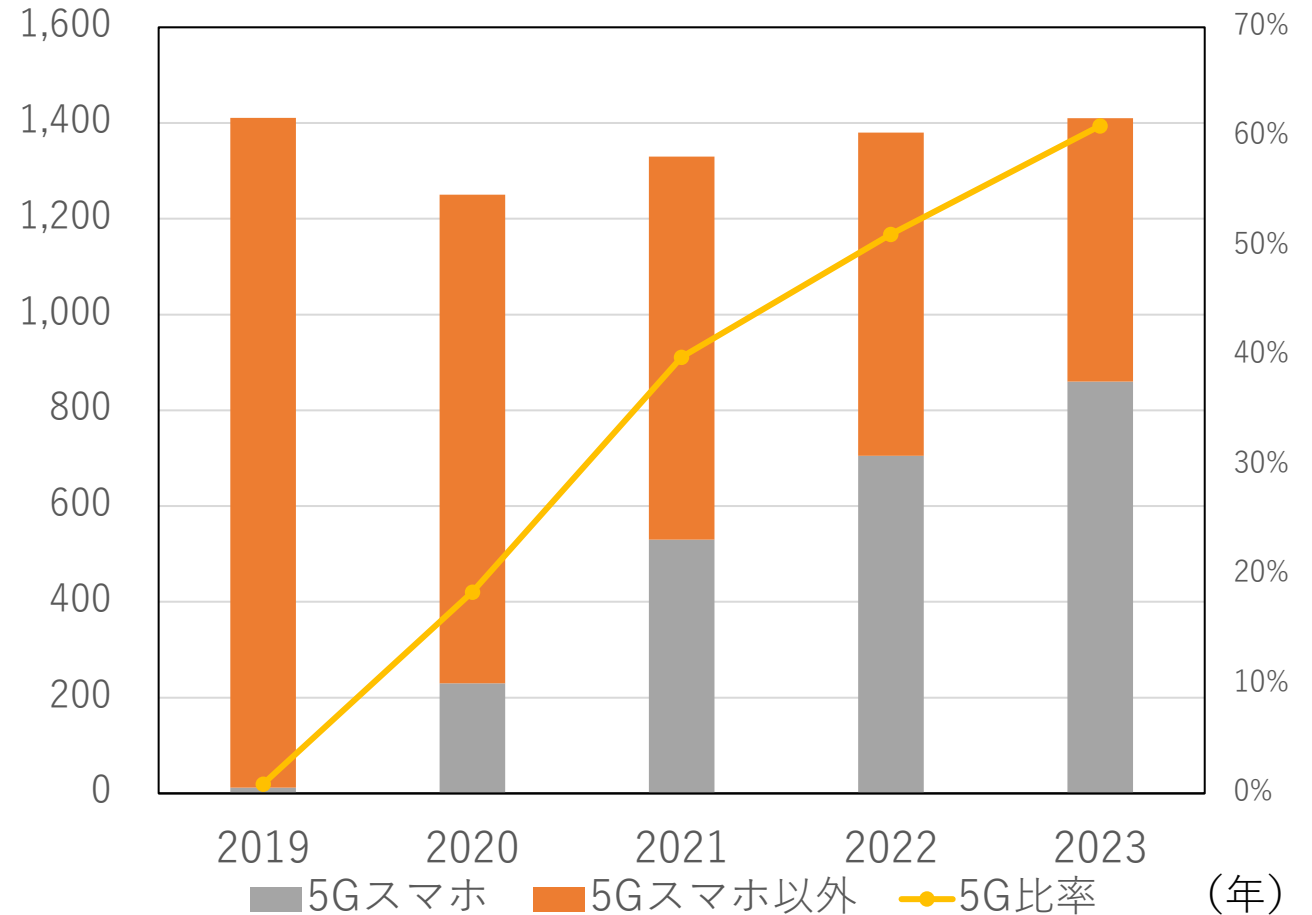
- 2021年度は市場全体が回復傾向、通常生産・販売を継続する見込み。
- 今年4月に電池サプライチェーン協議会が発足。
当社も会員企業の一員として参加していく。

3) 材料 ②機能性材料

各事業/主要製品の状況

- スマートフォン、PC、テレビ、車載等の市場は、販売台数増加を予想。関連部材では、一時的な調整は予想されるものの、堅調な販売が見込まれ、足元では主要生産拠点で高水準の生産が継続。
- 2021年は、通信の5G化の本格化により、結晶・粉体関係部材の使用量増加を見込む。

(百万台) スマートフォン生産台数と5G比率予想



※2020年は見込、2021年以降は予測

出典：富士キメラ総研「5G通信を実現するコアテクノロジーの将来展望2021」

V. 「2030年のありたい姿」実現に向けた活動の推進

I. 総括

II. 2020年度業績および2021年度業績予想の概要

III. 18中計 成長戦略の推進状況

IV. 足元の課題と重点施策

V. 「2030年のありたい姿」実現に向けた活動の推進

VI. 資料編

1) 気候変動 GHG削減の取り組み

TCFDシナリオ分析：

21中計に向け、リスクと機会の特定、その対策を検討中。進捗を「統合報告書2021」にて報告予定。

社内カーボンプライシング制度：

2021年度予算検討より導入。ボイラーの燃料を重油からLNGへ転換など。

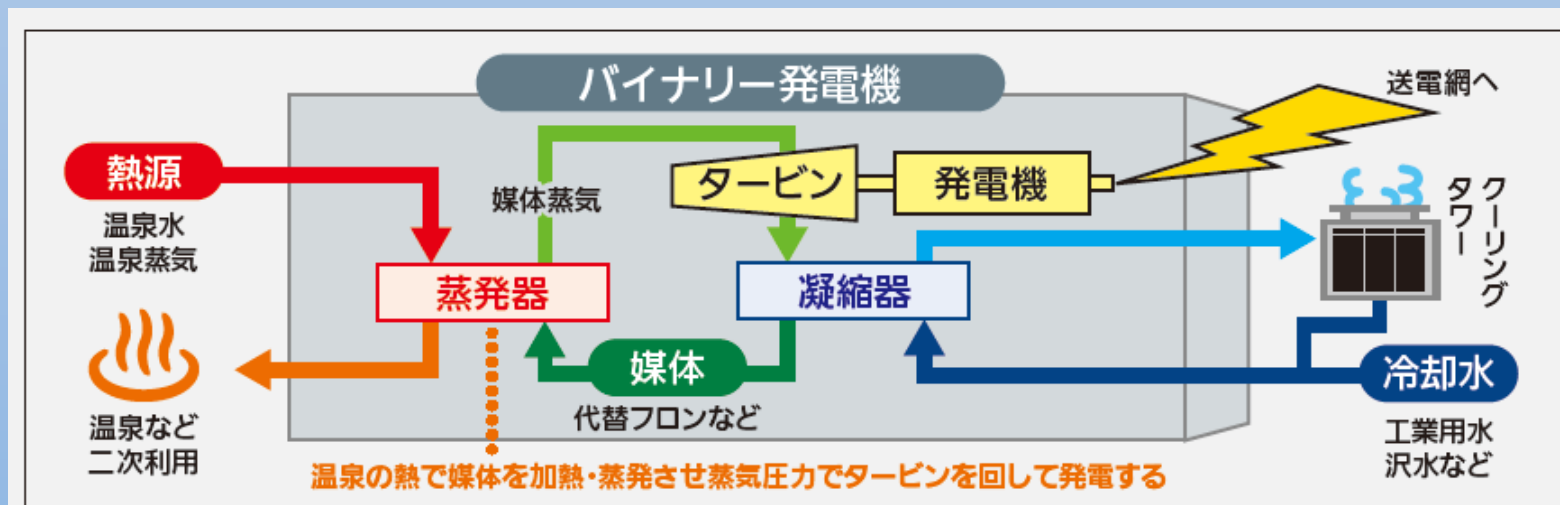
< 菱刈鉱山でのバイナリー発電導入 >

バイナリー発電設備を導入し、今年1月から稼働。

自然発生する温泉熱を利用した発電により、温室効果ガスの排出量を削減。

発電量：年間約570,000kWh
(菱刈鉱山での使用量の約2%)

年間のCO2削減効果 330トン



2) その他主要施策の進捗状況と今後の予定

資源の有効活用

従業員の安全・衛生

「DX推進委員会」の発足

2021年4月1日付で社長を委員長とする「DX推進委員会」を発足。
全社的な推進による経営への寄与を最大化することを目的とする。

多様な人材

人材の育成と活躍

人事・報酬制度の抜本的改正に着手

「従業員一人ひとりの人間性を尊重し、従業員が誇り・やりがい・働く喜びを持てる企業」に向け、人事制度の抜本的な改正を検討中。

サプライチェーンにおける人権

「住友金属鉱山グループCSR調達方針」の制定・取引先様へのご同意依頼

環境・社会・コンプライアンス等について、当社グループの遵守のみならず
サプライチェーン全体で取り組んでいく「住友金属鉱山グループCSR調達方針」
を2020年4月に制定済。2020年度末現在、主要な取引先様の99%より受領。
デューデリジェンスの仕組み構築に着手。

VI. 資料編

I. 総括

II. 2020年度業績および2021年度業績予想の概要

III. 18中計 成長戦略の推進状況

IV. 足元の課題と重点施策

V. 「2030年のありたい姿」実現に向けた活動の推進

VI. 資料編

1) 需給動向（銅、ニッケル）

銅

[ICSG予測2021/4]

(kt)

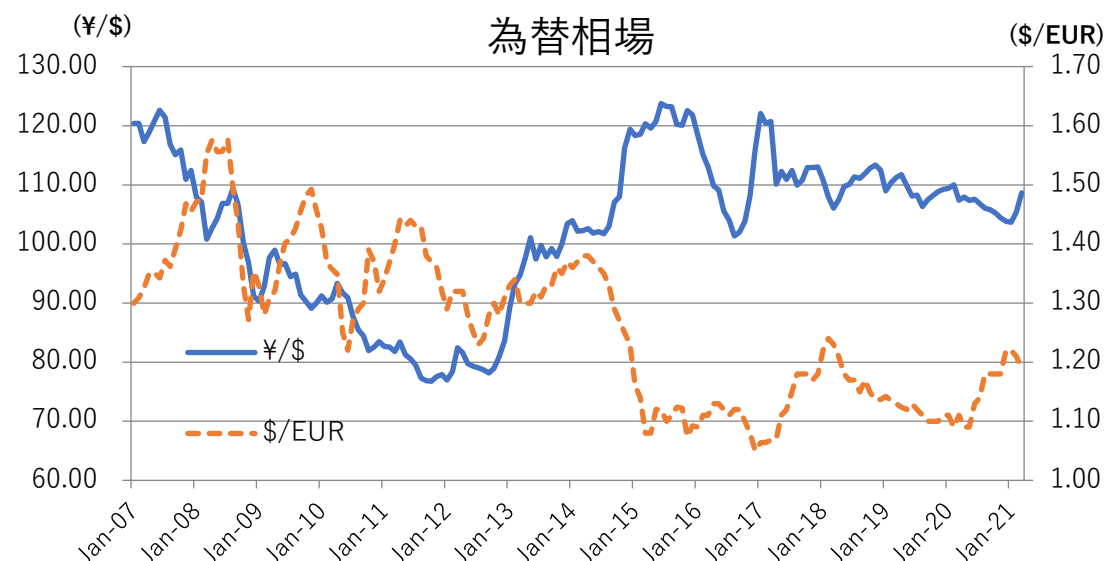
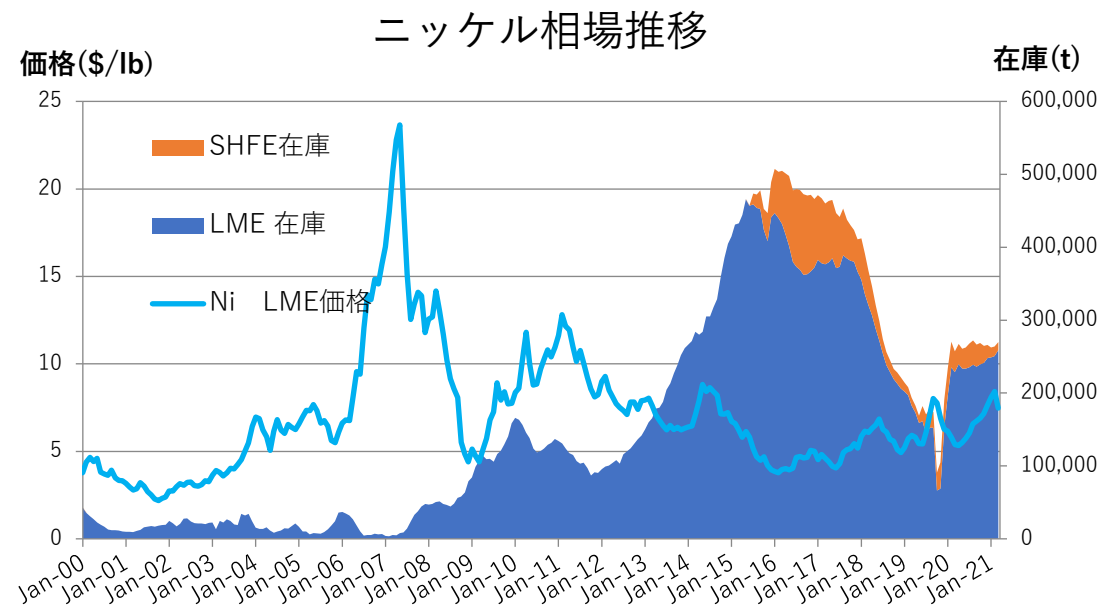
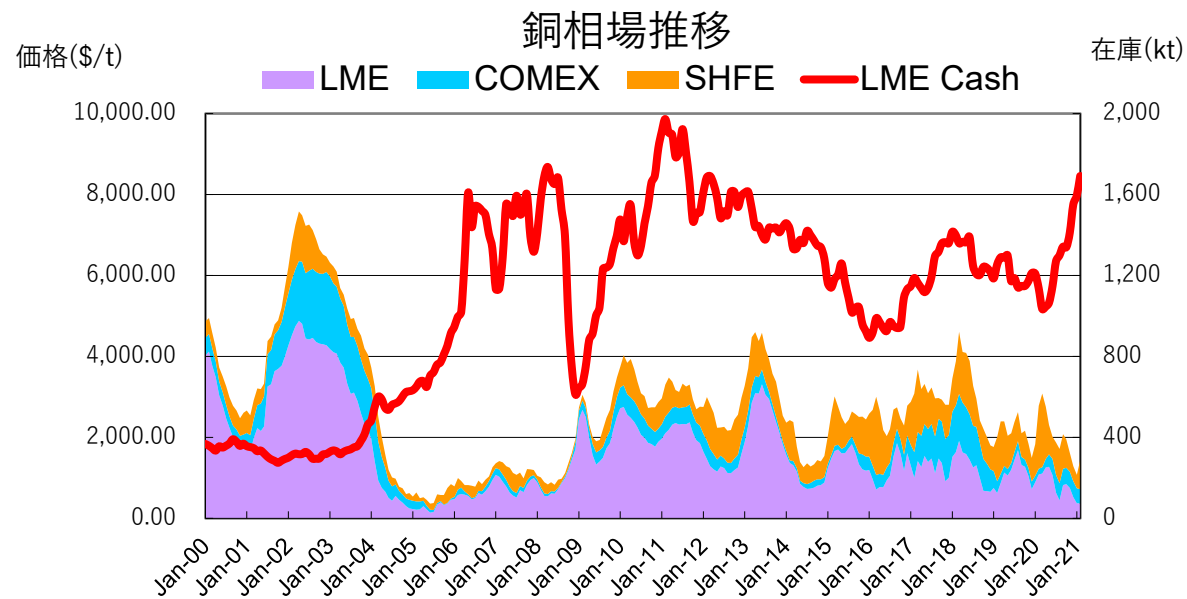
	2019	2020	2021（予）
Production	24,045	24,437	25,167
Usage	24,427	25,042	25,088
Balance	-382	-604	+79

ニッケル

(kt)

	INSG予測 2021/4			SMM予測 2021/2		
	2019	2020	2021（予）	2019	2020	2021（予）
Production	2,369	2,494	2,718	2,380	2,442	2,593
Usage	2,405	2,386	2,673	2,403	2,310	2,525
Balance	-36	+108	+45	-23	+132	+68

2) 非鉄金属・為替相場



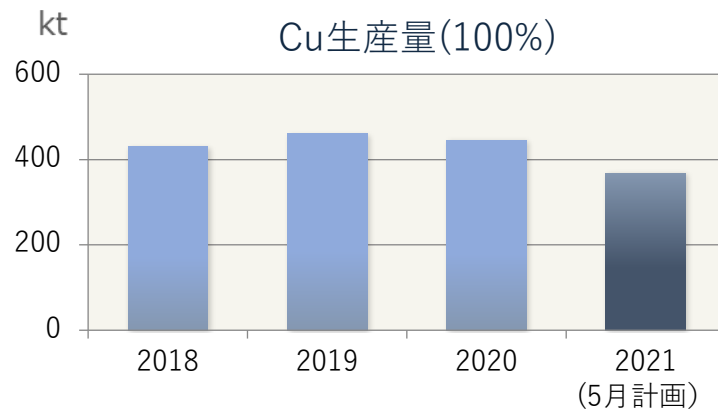
3) 個別事業の状況等 資源①銅（海外操業銅鉱山）

モレンシー銅鉱山（米国）

権益比率	FCX	72%
	SMM	25%
	住友商事	3%



・生産量	2020年度	446kt（実績）
	2021年度	368kt（計画）

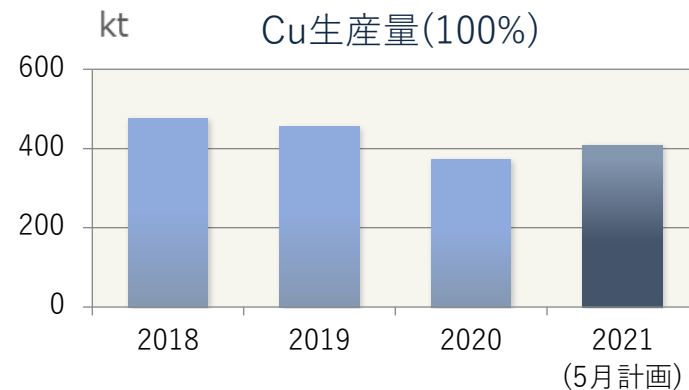


セロベルデ銅鉱山（ペルー）

権益比率	FCX	53.56%
	SMM	16.80%
	住友商事	4.20%
	その他	25.44%



・生産量	2020年度	372kt（実績）
	2021年度	409kt（計画）

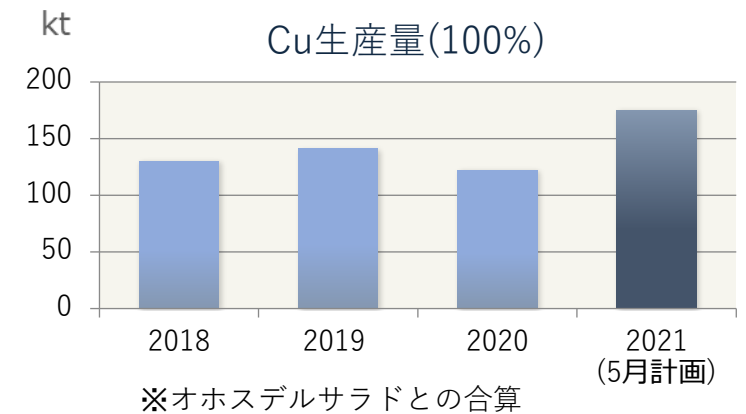


カンデラリア銅鉱山（チリ）

権益比率	Lundin	80%
	SMM	16%
	住友商事	4%



・生産量	2020年度	123kt（実績）
	2021年度	175kt（計画）



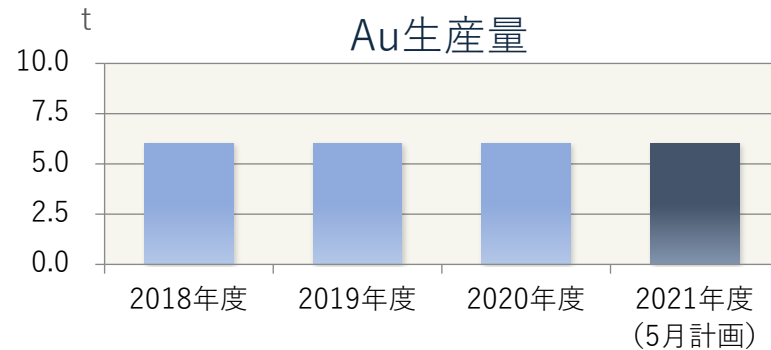
3) 個別事業の状況等 資源②金（菱刈・コテ）

菱刈鉱山 (鹿児島県)

権益比率 SMM 100%



- ・ 下部鉱体開発 保安第一で継続
- ・ 可採金量 2020年末 159t (JIS基準)
- ・ 生産量 2021年度 6.0t (5月計画)



コテ金鉱山開発PJ. (カナダ)

権益比率
 IAMGOLD 64.75%
 SMM 27.75%
 その他 7.50%

取得金額： 195 百万米ドル (約 215 億円)
 所在地： オンタリオ州

- ・ 2018年11月にF/S完成
- ・ 2020年8月より建設開始
- ・ 2023年より生産開始予定



初期起業費	US\$1,423M
マインライフ	18年
総生産金量	205t
可採鉱量	233Mt
可採品位	0.96g/t

(2020年7月21日プレスリリースより)

3) 個別事業の状況等

製錬①銅（東予工場）

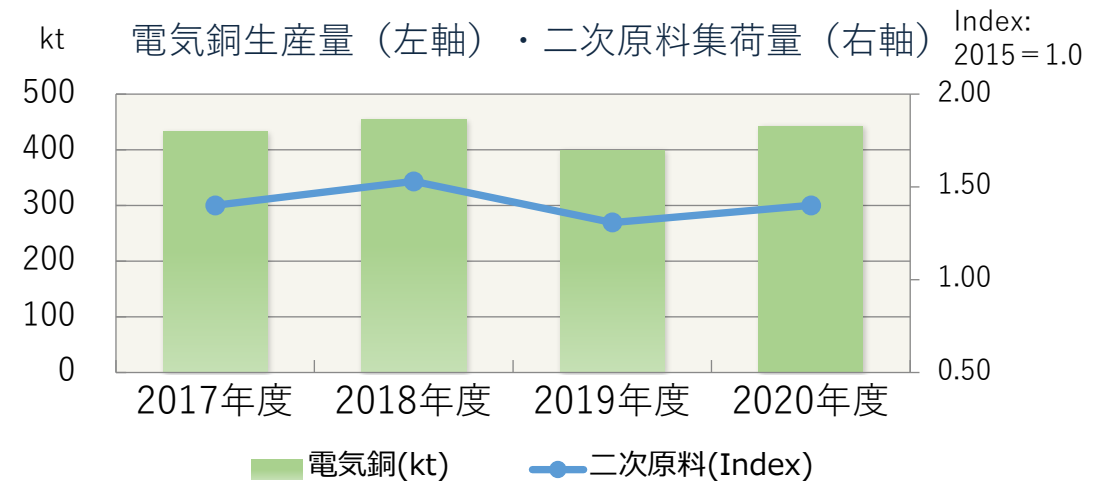
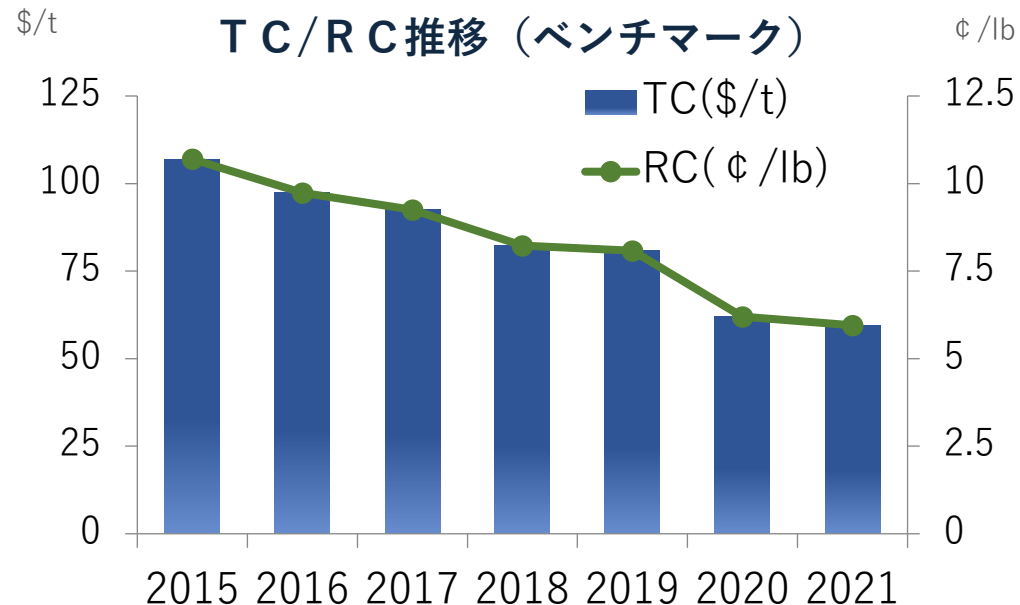
東予工場

電気銅 生産量

2020年度 443 kt（実績）

2021年度 421 kt（5月計画）

※2021年度は定期休転を予定



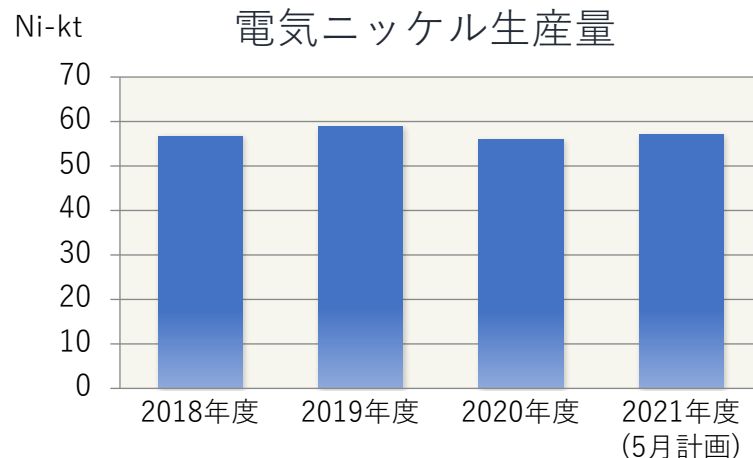
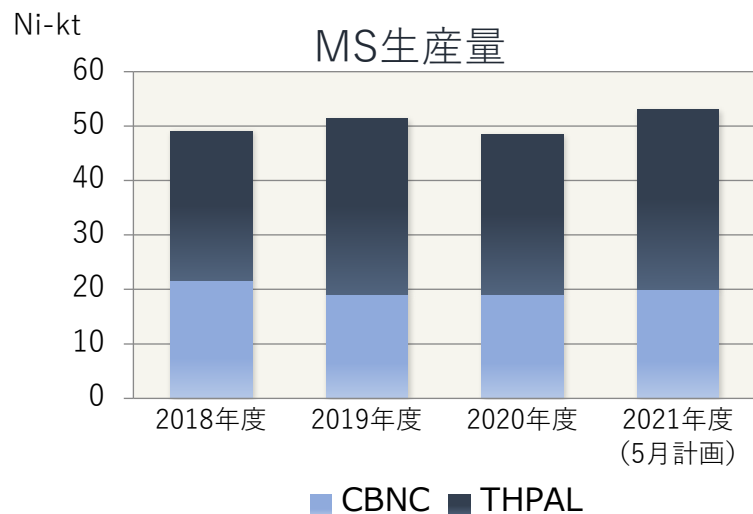
3) 個別事業の状況等

製錬②ニッケル (CBNC・THPAL・ニッケル工場)

CBNC、THPAL、ニッケル工場

生産量 (2020年度実績、2021年度5月計画)

単位 Ni-kt	2020年度 実績	2021年度 (5月計画)	増減
CBNC	19.1	20.0	+0.9
THPAL	29.4	33.0	+3.6
ニッケル 工場	55.9	57.0	+1.1



HPAL副産品回収の最大化

酸化スカンジウム :
2019年1月より商業生産開始

クロマイト :
2021年度より販売開始予定

3) 個別事業の状況等

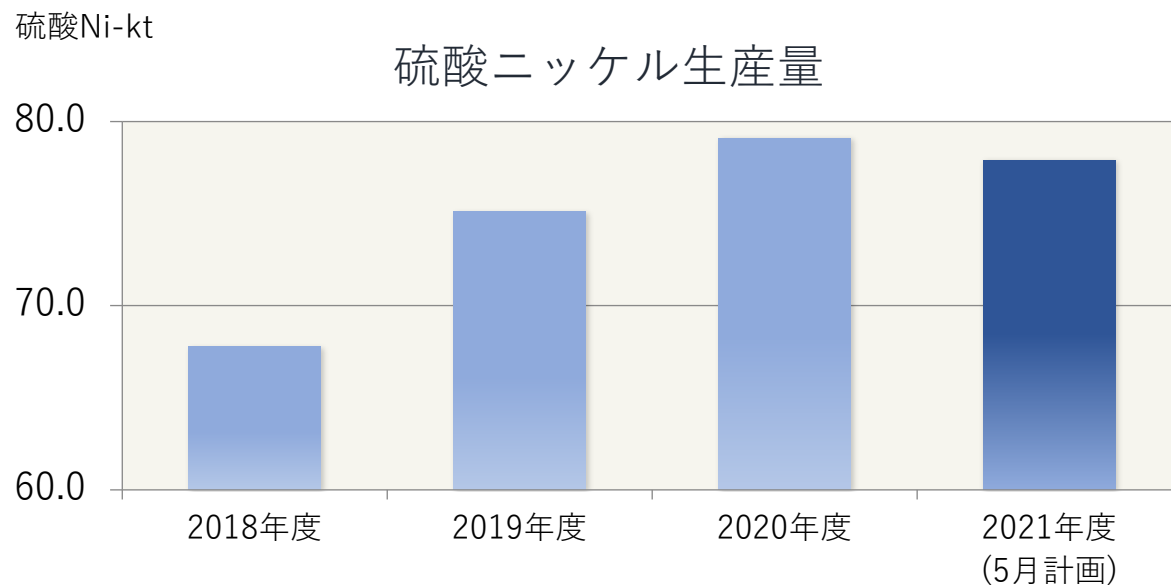
製錬③硫酸ニッケル（ニッケル工場・播磨事業所）

ニッケル工場、播磨事業所

硫酸ニッケル生産量（ニッケル工場と播磨事業所の合計）

2020年度 79.1 kt（実績）過去最高

2021年度 77.9 kt（5月計画）



3) 個別事業の状況等

製錬④フェロニッケル（日向製錬所）

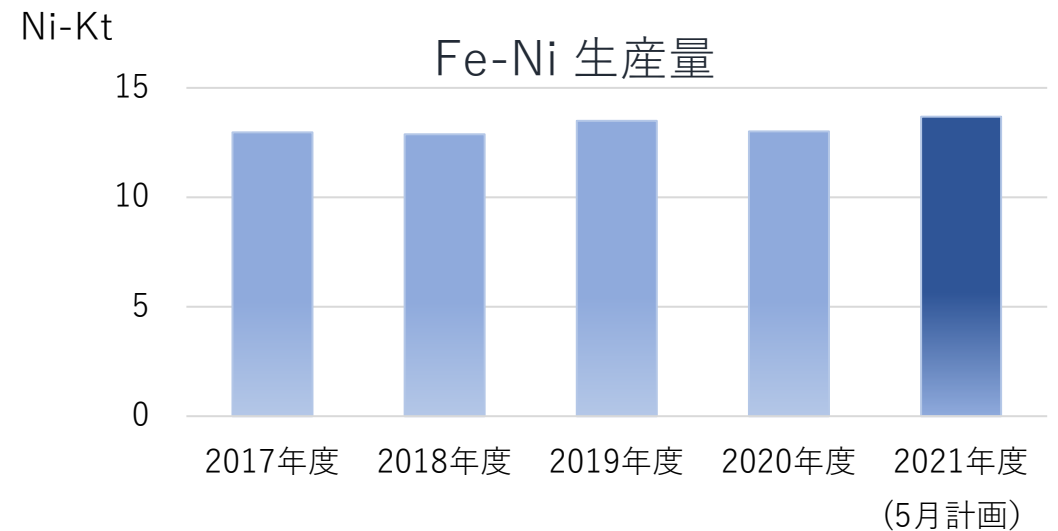
日向製錬所

生産量

2020年度 13.0Ni-kt（実績）

2021年度 13.7Ni-kt（5月計画）

- 2キルン－1電気炉体制下における生産量最大化を図る
- 安定生産と効率操業によりコストダウンを図り、収益を確保する



3) 個別事業の状況等 材料

電池材料

2020年度実績：上期は新型コロナウイルス感染症影響による市場低迷から減産減販もあったが、下期より回復。

2021年度予想：市場全体が回復傾向にあり、通常生産を継続する見込み。

結晶材料

2020年度実績：上期は新型コロナウイルス感染症によるスマホの需要低迷の影響を受けたが、下期より回復。

2021年度予想：5Gスマホ市場の拡大を受け、需要回復傾向が継続する見込み。

粉体材料

2020年度実績：車載向けで新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、民生向けを中心に需要は堅調に推移。

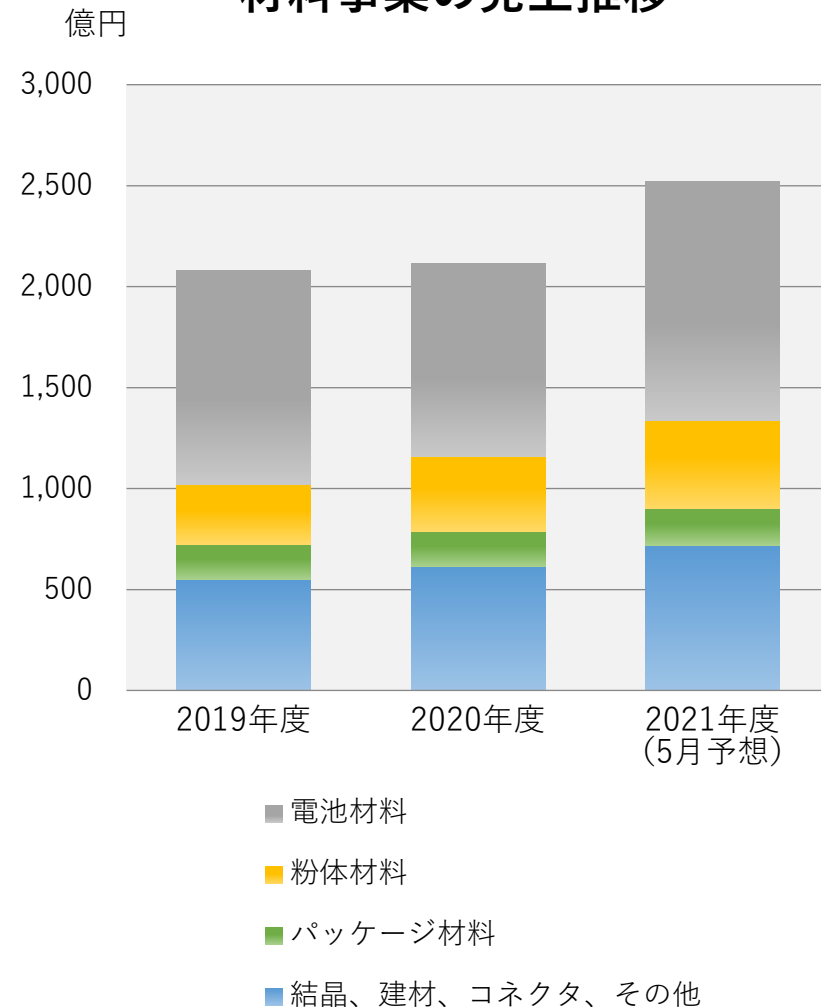
2021年度予想：巣ごもり・テレワーク需要や5Gスマホ関連などの民生用途を中心に堅調な販売を見込む。

パッケージ材料

2020年度実績：スマホ市場の低迷を受け低調に推移も、下期に回復。

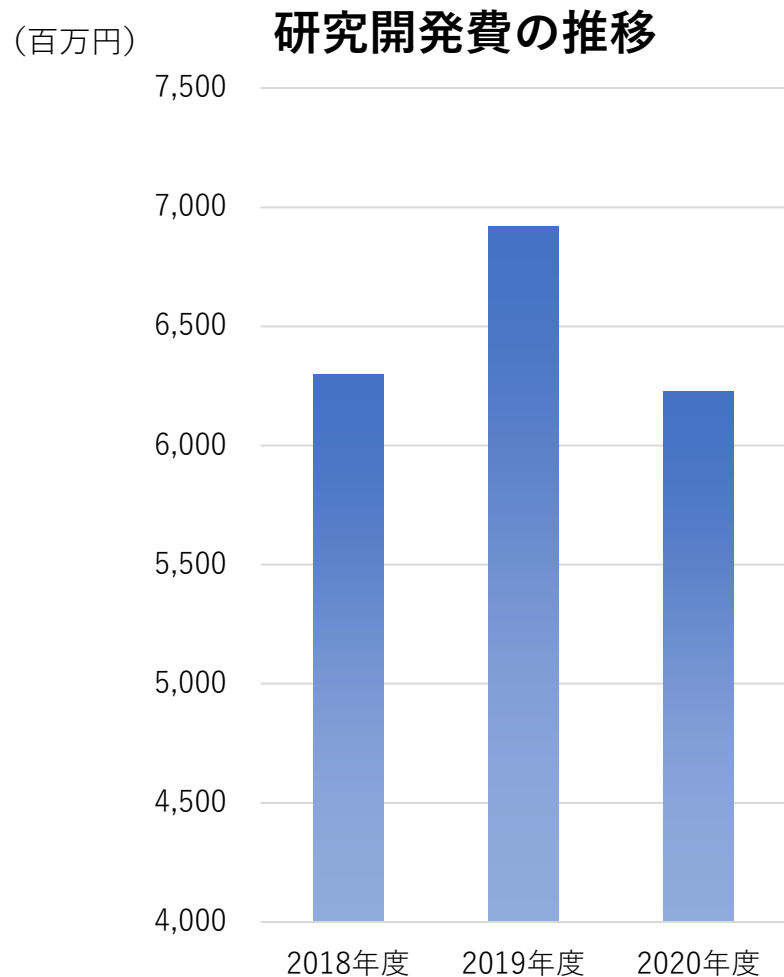
2021年度予想：テレワーク需要等で堅調な需要が継続する見込み。

材料事業の売上推移



※: 電池材料の売上高は、有償支給品に係る会計方針の変更の遡及適用後。

3) 個別事業の状況等 研究開発① 成果



材料事業(マテリアル開発)

【電池材料】

- さらなる高性能電池正極材料の研究開発
- 全固体電池への対応

【結晶材料】

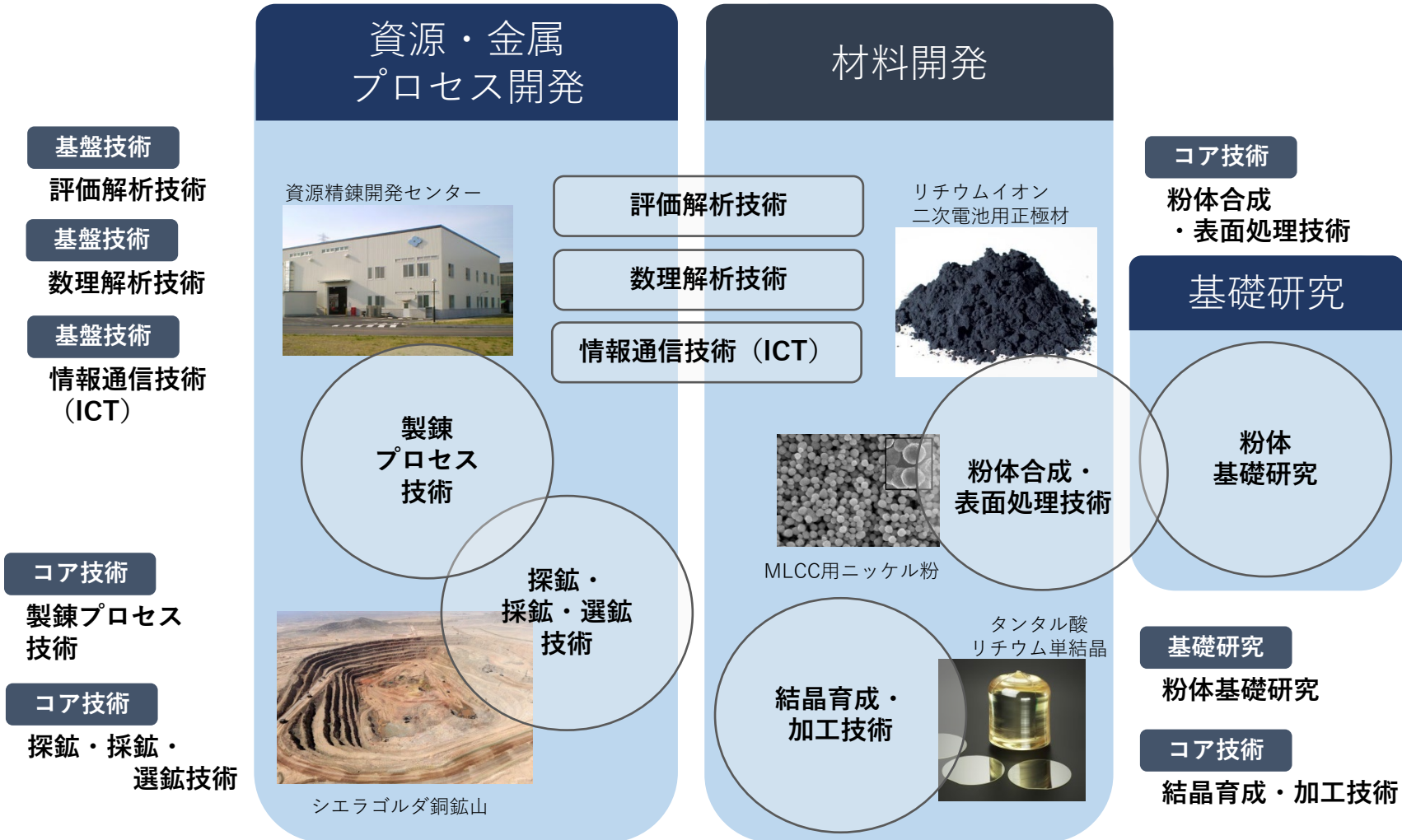
- コモディティ化に先行したコスト低減
結晶の長尺化・大口径化および結晶育成・加工収率の向上等による生産性向上を達成
- 新たなユーザーニーズへの対応
大口径LT結晶育成技術確立し、ユーザーワーク中

製錬事業(プロセス開発)

【リチウムイオン電池リサイクル】

- リサイクルの課題であったコバルト回収プロセスを開発し、パイロット試験で実証中

3) 個別事業の状況等 研究開発② 領域・分野



成長戦略分野に集中、次世代事業の“種”の探索

4) 感応度試算

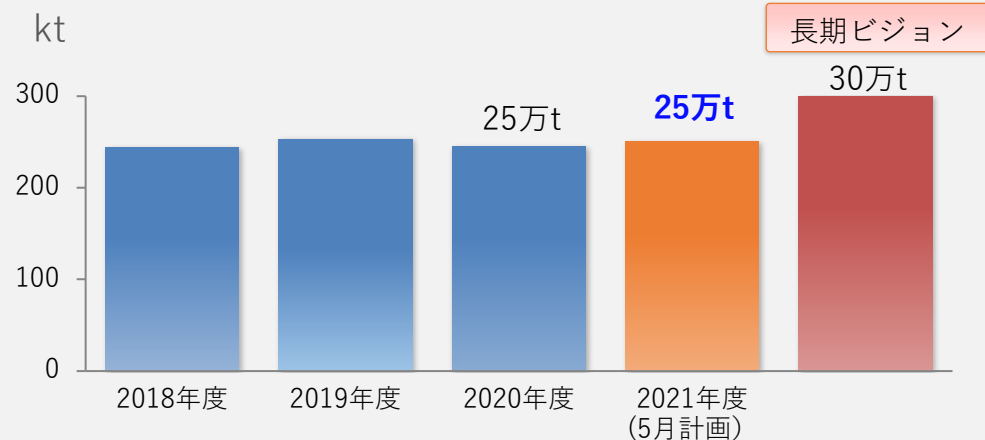
(億円)

要素	変動幅	2021年度 税引前利益
Cu	±100\$/t	25
Ni	±10 ¢ /lb	15
Au	±10\$/toz	2
円/\$	±1円/\$	18

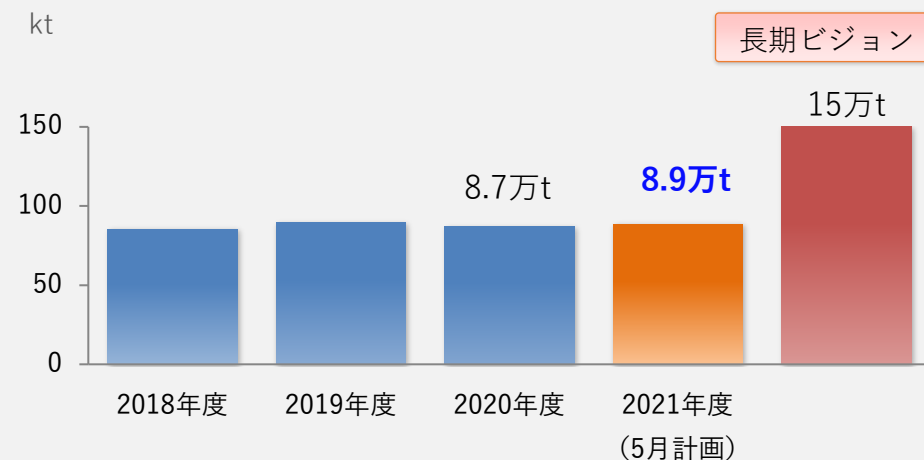
(注) 円/\$ は国内の金属加工収入および海外換算為替差の合計

5) 長期ビジョンのターゲットと達成状況

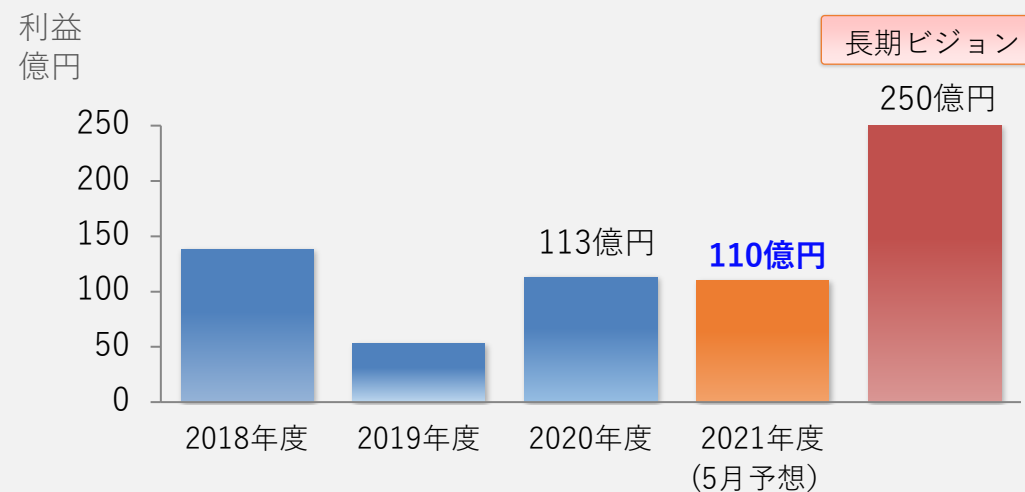
Cu (鉱山権益分生産量)



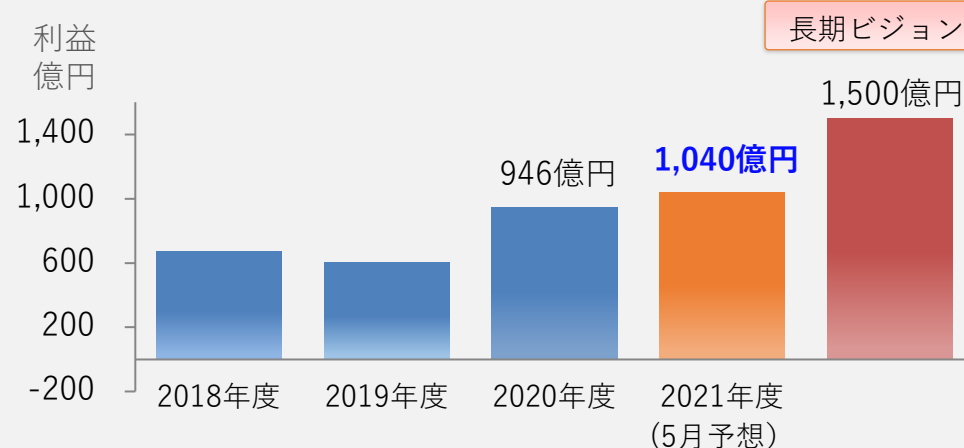
Ni (年間生産量) ※長期ビジョンは生産能力



材料事業 (セグメント利益)



当期純利益



ご注意

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また、本資料に記載されている将来の予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、市況、競合状況等、多くの不確実な要因の影響を受けます。

したがって、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。

住友金属鉱山株式会社



MINING THE FUTURE

<https://www.smm.co.jp/>

